

C-21 南蛮服飾による立衿の影響について

埼玉大教育 丹野 郁 天専女大家政 石井とめ子

〇共立女大家政 景平一恵

目的 室町時代から桃山時代にかけての南蛮人の到来が、日本の風俗に大きな影響を与えたことは、各地に珍藏されている服飾遺品によってもうかぞい知れる。先進文化国である西欧諸国、とりわけ当時その先端をいっていたポルトガル、スペインの人々の服装は、日本人に驚歎を与えたが、西欧服の特徴をどのようにとり入れたか、遺品を通して特に衿の部分について考察を試み、その後の日本衣服の発展にどう寄与したかを究明したい。

方法 熊本市本妙寺所蔵の伝加藤清正着用のポールポアンは当時の西欧服そのまゝのものであり、これを土台として伝細川忠興着用のも足下、伝上杉謙信着用のマント、貝足下伝徳川頼宣着用のも足下、陣羽織、伝徳川家宣着用のも足下等、ポールポアンの立衿の影響をうけたと認められる遺品を厳選して、その寸法、形状、仕立て方、裁ち方を上記のポールポアンとあるいはポルトガルでの遺品調査との比較において考察し、更に復元してその機能性と着装の状態などを検討した。・・・・・・・・

結果 日本人が西欧服の特徴をとり入れる時、武將運か武装した状態を示す為立衿をつけていたこと、又武装の下着として首を保護し、又衛生的であったことか、遺品の調査復元、着装状態、文献資料などがう明らかになった。更に立衿はその後の和服の衿に変化をもたらし、折衿、衿付コート、羽織等に直接、間接に影響していったと思われる。